

土山小学校

令和7年度 我が校の学ぶ力向上策

【市町 目標】

○IKOKA学習デザインを基盤とした、主体的・対話的な深い学びの実現を目指し、学ぶ楽しさを実感し、確かな学力を育む教育の充実

- ・「読み解く力」向上を図るための授業開発、実践の推進を図る。
- ・「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」のツールとしての効果的なICT活用の促進を図る。
- ・いじめを許さず、支え合い学び合う集団を育てる学級、学校づくりの充実を図る。

【学校 目標】

- 調べたことや分かったことを主体的に表現することと、友達の意見を参考に自分なりに表現することを大切にする。
- 学校、家庭、地域が一つになった教育の推進を目指す。

【現状と課題】

- 視点1 基礎的な力が身につけていない子や身につけていてもそれを活用したり表現したりすることが苦手である。
(1)与えられた課題には取り組めるが、主体的に学習計画を立てて進めたり、さらに追及していこうとする意欲が弱い。
(2)ICTの活用は積極的に行い、調べ学習などタブレット操作を使いこなしている児童が多い。
- 視点2 自尊感情が低く、自分に自信が持てない傾向がある。
- 視点3 身近な人や地域に働きかけ、自分たちの生活を豊かにしようとする意欲が弱い子がいる。

取組事項および評価指標

※評価:【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目:9月 2回目:2月】
※達成状況の割合(%)は、目標数値に対しての達成状況の割合です。

【視点1】子どもたちが主体の授業づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①県の「読み解く力」を元にした授業改善を行う。 ①表現方法を身に付け、考えや思いを書こうとする児童を育む。 ②ICTを使った学びあいの場について研究を深める。	①ペア学習などでどの子も発言する機会を80%以上行う。		
	①年に2回以上子どもが進んで書きたくなる授業を仕組む。		
	②タブレットを使った協働的な学びあいを年に3回以上行う。		
【視点2】学びを支え合う集団づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①互いの違いを認め合う温かい学級集団作り ・毎月の人権の日・人権週間 ②人と自分を大切にする意欲と挑戦と温かい絆の醸成	①生活アンケートのいじめがあるという回答が5%未満		
	②学校評価の「進んで挨拶する」の項目が80%以上		
【視点3】協働して取り組む学校づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①コミュニティスクール土山の運営 ○「土山学」の充実 ②読書活動、自主学習の充実	①「土山学」の実施80%以上		
	②本の貸し出しが一人平均15冊以上		
	②学校評価の家出の勉強時間1時間以上が45%以上		

○昨年度の学校評価や学校運営協議会等で、読書時間の少なさが浮き彫りになった。年度末の修了式や今年度の始業式で、児童に自分に合った素敵な本と出合えるようにたくさん読書をするよう呼び掛けた。図書担当からも、学年ごとに仮に行く曜日と時間を提案した。

○自主学習については、今年度5回自主学習展を開催することを担当から全校児童に伝えた。ほかにも100ます計算や詩の暗唱など頑張った児童に「なでしこ賞」という賞状を与えることも伝え、児童の意欲につながることを期待している。
○今年度は校内研で「書く力」を高めるための研究を進める。各学年1本の授業研究を進め、研究主任から提案された仮説に基づき単元構成を部会で考え、全体会で検証していく。また、タブレットを使った効果的な学びあいの手法についても検討していく。

○「土山学」については、生活科及び総合的な学習のカリキュラムに位置付けられているとともに、年間計画の中に、計画、打ち合わせ、実施、振り返りの時期や誰と打ち合わせをするのか等も記されている。

○日々の授業でのペア学習やタブレットの学習について、定例職員会議や打ち合わせで、良い事例を紹介したり、OJTで討議したりしていく。

今年度の取組の成果と課題